

## いじめ見逃しゼロ!!

11月9日に荒川中学校で、荒川中学校区の『いじめ見逃しゼロスクール集会』が行われました。この集会には、金屋小と保内小の6年生も参加しました。

集会は3部構成になっていました。第1部は県の「学校訪問キャラバン隊」によるいじめ防止対策についての提言やアトラクション、第2部は中学生が作成したいじめにかかわる映像を見ての感想の共有、第3部は日比野音療研究所さんによる「天上の音楽」のコンサートがありました。

短時間でしたが、小中学校の子どもたちが一緒になって、いじめは絶対にいけないこと、命はかけがえのない大切なものであることを確認し合い、いじめ見逃しゼロへの決意を新たにしました。



さて、先月末報道で、県教育委員会より昨年度の県内小中高校、特別支援学校でのいじめの認知件数が発表されました。

今回は、前年度比3倍超の9935件で、増加分の大半は小学校が占めているともありました。いじめの内容としては、「冷やかしかからかい、悪口」「遊ぶふりをして、叩いたり蹴られたりする」が殆どでした。とても悲しい事実です。

そこで、いじめの定義を確認します。法律では、以下のように定義しています。

当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの 【いじめ防止対策推進法】



この定義で大切なことは、いじめとは、いじめ行為者ではなく、行為を受ける側の気持ちやとらえ方を重視するということです。また、場所などは関係なく人間関係がある全ての者を対象に苦痛を与えられたと感じたら、それはいじめになります。

つまり、いじめられている側が、「いじめられている」と感じれば、それはいじめの問題の対象となり得るのです。具体的には、ある子どもが悪ふざけのつもりでやっていたことでも、その行為を受けた人が「精神的にショックを受けた」と言えば、それは立派な「いじめ」にな

るということです。

子どもたちはよく友達と悪ふざけをします。また、時にはけんかをすることもあります。「いじめ」とけんかや悪ふざけの区別を付けるのはちょっと難しいことがあります。

それを見分けるポイントとして、●行為が、いつも特定の集団の中で起こっている ●行為をする側に、明らかな優位性がある ●嫌がることを、反復して、継続して行っている ●嫌がることをわかった上で行っている ●1対1ではなく、傍観している者がいる があげられています。家庭や地域でも、こんなポイントで子どもたちの同士のかわりを見ていただくとありがたいです。

先ほど紹介したいじめ認知件数の増加には、いじめの芽を摘むために、子どもたちを含め関係者の意識が高まってきたこと、軽微なケースでも積極的に把握し、早期解決を図ろうとする体制ができつつあることも要因として考えられています。

みんなで子どもたちの様子をよく見守り、地域のいじめ見逃しゼロを目指しましょう。  
(文責：校長)

## 健康でたくましい心身を育む ～体育～

**目標1** 基礎基本となる7種目(※)の全ての種目で目標値を達成する。

**評価基準1** A 7種目 B 5種目以上 **C** 4種目以下

※基礎・基本となる7種目の目標値と**11月15日現在の結果**

- ① クロールか平泳ぎか背泳ぎかバタフライのうちの1つで25メートル以上泳げる児童を85%以上(4年生以上) → **結果は80.7%(46人)**
- ② 逆上がりができる児童を60%以上 → **結果は52.5%(52人)**
- ③ 後転ができる児童を80%以上
- ④ 二重跳びができる児童を55%以上(3年生以上)
- ⑤ 開脚跳びで自分の身長のお半分からいまで跳び箱が跳べる児童を90%以上
- ⑥ 登り棒で自分の身長のお半分からいまでの高さが上れる児童を80%以上  
→ **結果は78.8%(78人)**
- ⑦ 雲梯で半分まで行ける児童を70%以上 → **1学期の結果は83.8%(83人)**

各種目の達成者を体育館に掲示し、全ての種目を達成した人を「金屋っ子スーパーアスリート」に認定します。今年度はそれに加え、昨年度より達成した種目が増えた子を努力賞とし、子どもたちの体力向上への意欲を喚起していきます。

1学期の体力テストの結果を受け、2学期「雲梯強調週間」を設けて、苦手な子を中心に練習をしました。その結果27人ができるようになりました。



雲梯強調期間(1年生)の様子

**目標2** 家庭でメディアと触れ合う時間(上限は平日2時間、休日5時間)を自分で決め、その時間を守ることができた児童を80%以上にする。

**評価基準2** **A** 80%以上(79人以上)  
B 75%以上～80%未満(74～78人)  
C 75%未満(73人以下)

学習・生活Wアップカードやセルフモニタリングシートを使って、子どもたちに家庭での時間の使い方やメディアの時間を考えさせました。メディアの利用時間が多い子には、担任や養護教諭が時間の使い方を再考するように働きかけています。今後も子どもたちが望ましい生活習慣を身に付けられるように取り組んでいきます。ご支援、ご協力をお願いします。

## バスの中ではマスクをしましょう!



風邪やインフルエンザが流行する季節になりました。荒川中学校区では、スクールバスの中で感染が広がらないよう乗車中は必ずマスクをすることとなりました。そのため、スクールバス用のマスクと給食用のマスク、2つのマスクの用意をお願いいたします。なおバスの中でのマスク着用は、来週11月20日(月)からとなります。ご協力をお願いいたします。



## 豊かな心を育む ～徳育～

**目標1** 「いじめ見逃しゼロ強調期間」の取組を行う前後の児童アンケートで「どんな理由があってもいじめはよくないことだ」と答えた児童が全ての学年で数値が上がる、または100%にする。

- 評価基準1**
- A 6つの学年全てで数値が上がる。
  - B** 4～5つの学年で数値が上がる。
  - C 数値が上がったのが3つの学年以下。

期間中に「ふわふわ言葉」や「ちくちく言葉」、「いじめ見逃しゼロを目指しての標語」をクラスで話し合っ決めてました。また全校での人権教室やいじめについて考える授業を行い、相手の気持ちを考えた言動を意識するように取り組みました。

結果、6学年中4つの学年の数値が上がりました。この強調期間は2学期10月24日～11月17日にも行き、継続して指導しています。



「いじめ見逃しゼロミニ集会」の様子



人権教室の様子

**目標2** 保護者アンケートで「学校は道徳に力を入れている」の肯定的評価を80%以上にする。

- 評価基準2**
- A** 80%以上（64家庭以上）
  - B 70%以上～80%未満（56～63家庭）
  - C 70%未満（55家庭以下）



「心の懇談会」の様子

6月の「道徳」の授業参観後に、「心の懇談会」を行いました。下学年が「金屋っ子の心は？」、上学年が「いじめについて考えよう」をテーマに2つのグループに分かれ、保護者の方と教職員が話し合い、意見交流を行いました。保護者アンケートの結果は、98%と高評価でした。

## 1月の学習参観日変更のお知らせ

年度初めに予定していた1月19日（金）の「冬の学習参観日」を学校事情により**1月18日（木）**に変更させていただきます。よろしくお願ひいたします。日程等は以下の通りです。

- 11：20～12：10 4校時【授業参観】
- 13：30～13：45 3年生発表集会
- 13：55～14：40 5校時【授業参観】 全校5時間授業
- 15：00～16：30 保護者対象講演会

今年度の知育、徳育、体育の学校評価とその進捗状況についてお知らせいたします。

## 確かな学力の向上 ～知育～

- 目標 1** 全校テスト（3年生以上はWeb配信診断問題）において期待得点（1年生は90点、3年生以上は県平均）を上回る児童を全校で65%以上にする。

- 評価基準1**
- A 65%以上（64人）
  - B** 40～64%（39～63人）
  - C 40%未満（38人）



算数は、5～7月の3回とも全ての月で期待得点を上回る児童が65%でしたが、国語では、2回下回りました。（1学期）  
全校テスト前の朝学習の時間に行っていた複数の教員で指導する「朝学習ゴールデンタイム」を今年度は毎週水曜日にも位置付け、各学年2人体制で継続的に指導を行っています。その結果、基礎基本の定着に向上が見られます。

- 目標 2** 毎月の学び方アンケートで「授業で学級の友達との間で話し合う活動を通してよく分かった」と答える児童が全体の80%以上にする。

- 評価基準2**
- A** 80%以上（79人以上）
  - B 60～79%（59～78人）
  - C 60%未満（58人以下）

5月から毎月、子どもたちに「学び方アンケート」を実施し、子どもたちの学習状況に関する意識を調べています。結果は、毎月80%以上を超えてきました。授業での話し合いが学習内容の理解につながっていることが分かります。またその結果を活かし、より分かりやすい授業づくりに取り組んでいます。



1年算数授業の様子



6年理科授業の様子

- 目標 3** 家庭学習で学年相当の自主学習ができている児童を70%以上にする（1年生は2学期から）

- 評価基準3**
- A 70%以上（69人以上）
  - B** 50%以上（49人～68人）
  - C 50%未満（48人以下）

今年度は、自主学習の質に焦点を当てて取り組んでいます。そのため、自主学習メニューをA「反復練習的な内容」、B「学習のまとめ直しや考えて創り上げる内容」とし、特にBメニューに取り組むよう働きかけています。